企業の力になる日商簿記

広告

商工会議所検定試験

「今」を理解するために必要なのは簿記と歴史

芸能文化会計財団
理事長
山田 真哉 氏

簿記の「すごさ」に受けた感動を伝えたい

山田 真哉 Yamada Shinya
1976年、兵庫県生まれ。公認会計士・税理士。一般財団法人芸能文化会計財団理事長。大阪大学文学部卒業後、公認会計士を目指し、2000年、中央青山監査法人(当時)に入所。2004年、独立。2005年に出版された160万部突破の『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』をはじめ、『女子大生会計士の事件簿』シリーズ、『あいるさん、これは経費ですか?』『結婚指輪は経費ですか?』など会計関連の著書多数。2011年、芸能界専門で会計・税務支援を行う一般財団法人芸能文化会計財団理事長に就任。

——学生時代に日本史を勉強されていました。簿記と歴史には関係があるのでしょうか。

簿記は、数字が出てくるので数学のイメージがあるかもしれませんが、むしろ歴史に近いと思います。資本と負債を足したものが資産であり、そこから費用をまかない、収益を生んで資本を蓄積するという流れは、因果関係がつながったものであり、これは歴史の作業と同じです。今の世の中を理解するためには歴史を知る必要があるように、現代の経済を知るためには簿記を学ぶ必要があります。

「簿記を知らなくても財務諸表は読める」という声もありますが、それでは本当に理解したとは言えません。サッカーでも戦術を学ばなくてもボールを蹴ってゴールすることはできますが、戦術を知っていればより良いプレーができますよね。

世の中を見るための一番便利なモノサシ

——『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』をはじめ簿記や会計をテーマに執筆なさっているのはなぜですか。

ルネサンス期(14世紀末〜16世紀初頭)に簿記が生まれ、それが発展して会計になり、現代の資本主義経済につながっています。簿記の誕生で、物々交換の時代から、お金の貸し借りが可能な貨幣経済に移ったのです。

簿記は文字に匹敵する大発明だと思います。〈国民所得=消費+投資〉という計算は、簿記の基本である〈資産=負債+資本〉の応用です。私が簿記や会計をテーマに本を書く最大の理由は、簿記のすごさ、素晴らしさから受けた感動をお伝えしたいからです。せっかく簿記を学んだら、会計ソフトを使うだけではなくて、「世の中を見るための一番便利なモノサシ」として使っていただきたいと思います。簿記の問題を作る方や教える方が、簿記が生まれた経緯など歴史を踏まえていただくと、興味を持って学ぶ人が増えるのではないでしょうか。

『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』をはじめ、私が書いた本の読者の皆さんには、会計に興味を持っていただけたのではないかと思います。今後は「簿記は経済や会計の基礎」であることを、メディアを通して面白おかしく伝えたいですね。

ビジネスの視界が広がる

——簿記を勉強している方々にメッセージをお願いします。

簿記は「技術」だと考えている方が多いと思います。私自身、パズルのようにとらえていました。しかし、簿記は本来、物事の根本についての考え方、哲学なのです。大切なことは、資格を取るための勉強ではなく、簿記の考え方を身に付けることです。そうすれば簿記の勉強は楽しくなりますし、いつか必ず、簿記というシステムの「すごさ」を実感する時が来ます。

社会人であれば、仕事の多くは、「収益を増やすため」か「費用を減らすため」のいずれかであり、まさに簿記の世界です。簿記を学ぶと自分の仕事の見え方が大きく変わります。よく、「簿記を勉強すると経済のニュースがわかるようになる」と言われるのは、どのニュースも、「収益が伸びた」「費用がかさんだ」など、資産、負債、収益、費用、資本という、簿記の5つの要素で分類できるからです。これらの要素と貸借対照表、損益計算書を理解すれば、もやもやしていたビジネスの世界の視界が、大きく開けてきます。この感動を、ぜひ大勢の方々に味わっていただきたいと思います。

簿記は、企業の活動を適切かつ正確に情報公開するとともに、経営管理能力を身につけるため必須の知識です。社員一人一人が、経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにする簿記スキルの習得は、企業力の強化につながります。商工会議所では、経営支援の一環として、企業現場で求められる実践的な人材を育成するとともに、そのスキルを評価・認定する検定試験を実施しています。日商簿記検定は、1954年の開始以来、累計約2500万人が受験しており、時代を問わず多くの企業が社員に求める資格の上位に位置しています。この度は簿記の持つ力や活かし方について、オピニオンリーダー2人にお話を聞きました。

学んで活かそう

簿記は会社経営のパートナー

サイボウズ株式会社
代表取締役社長
青野 慶久 氏

青野 慶久 Aono Yoshihisa
1971年、愛媛県生まれ。大阪大学工学部情報システム工学科卒業後、松下電工(現パナソニック)を経て、1997年8月愛媛県松山市でサイボウズを設立。2005年4月代表取締役社長に就任(現任)。社内のワークスタイル変革を推進し離職率を6分の1に低減するとともに、3児の父として3度の育児休暇を取得。また2011年から事業のクラウド化を進め、有料契約社は11,000社を超える。総務省ワークスタイル変革プロジェクトの外部アドバイザーやCSAJ(一般社団法人コンピュータソフトウェア協会)の副会長を務める。

会社の真の姿を見るために簿記が必要

——簿記は会社経営のどのような面で役に立っていますか。

簿記の仕組みを初めて見た時は「なぜ、こんなことをするのだろう」と思っていました。学ぶきっかけは「稲盛和夫の実学」を読んだことです。経営者である稲盛さんが、「採算の向上」、「ダブルチェック」、さらには「資産か費用か」など簿記に直接かかわる内容まで、驚くほど詳しく述べておられます。

私はこの本から「会社の真の姿」、がわからなければ、経営は怖くてできない、ということを学びました。人間で言えば、朝起きた時の「気分」だけではなく、体温を測らなければ正確な健康状態はわからないですよね。大切なことは、実態をいかに正しく表すか、です。会社の状態が悪い時には、数字にも反映されているはずです。会社の真の姿を表すためにあるのが簿記であり、そのことを知ったうえで簿記を学び、使うと、経営にとても有効に働きます。

簿記は、会社という船を安全に目的地に運ぶために活用すべきものなのです。例えば、交通費ひとつとっても、金額だけではなく、たくさん使っている人の売り上げが大きいのか、といった分析をすることで、新しい意思決定につながるかもしれません。簿記は、あらゆる活動をお金という軸に換算して表現してくれますから、管理職であれば必ず学んで欲しい知識です。

簿記は経営判断の要

——会社を設立する時、どのような点を重視していましたか。

金銭感覚が少ないために苦労している方をたくさん見てきました。大事な資金は「お金を産むところ」に投じる必要があります。ところが、「どうしてそこに△△円も使うの?」と疑問に思う場合がよくあります。逆に、会社が成長しているのに、慎重になり過ぎている経営者の方も見かけます。財政状態が良いのに経費を抑え過ぎると、商機を逃してしまいます。

会計によって数字を押さえていれば、どれだけリスクを取れるかが明確になります。現金と自社株で50億円あれば、5億円の勝負は大したことはないが、20億円の投資であればちょっとビビる。50億円の案件は、絶対的な勝算がなければ手がけない、といった具合です。

サイボウズを開業した時は、まだ世の中に出回っていないグループウエアを売るために、まず「グループウエアとは何か」を知っていただくことが最も重要でした。そのため、最初の3年間は売上の半分を広告宣伝費に充てる一方で、松山市内のマンションの一室を事務所兼社員の住居とするなど、他の支出は徹底的にケチりました。

会社経営では、真の姿を把握し、身の丈に合った投資をすることが大事です。そのため経営者は、簿記を基礎として、数字を頭に入れて自問自答すべきだと思います。

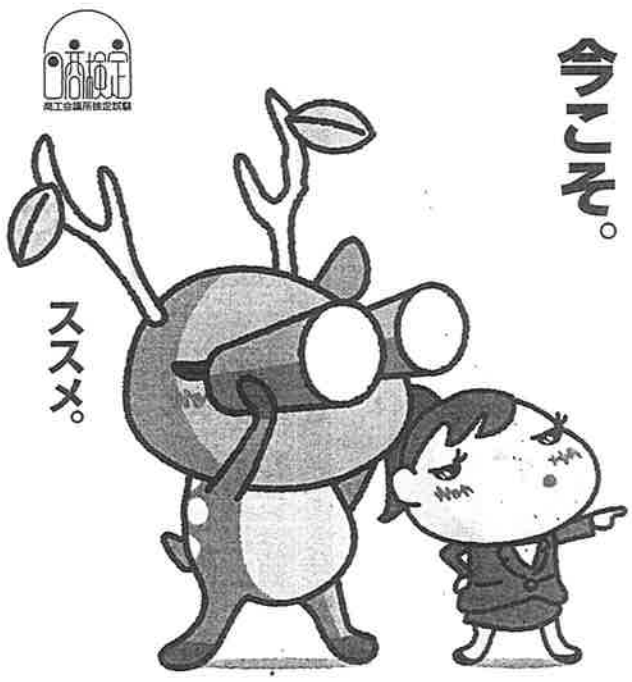
簿記とITとの相性は抜群

——ITと簿記はどのような関係にあるでしょうか。

簿記が扱うのは数字(データ)ですから、ITとの相性は非常によくて、会社の真の姿を、いろいろな角度からリアルタイムで分析することにつながっています。例えば、わが社では日次で売上を確認できるので、月の途中で戦略を変更できます。簿記は、ITを活用することで、会社の「真の姿」を明らかにし、戦略に活かすクリエイティブな事業を支えています。さまざまな経営指標の基本は簿記であり、簿記は、経営者が意思決定をする時に、お金の観点で間違いのない判断をするための、いわばパートナーです。

社員の能力を高め、経営力をアップしませんか?

商工会議所の資格が証明します



企業が求める資格、第1位※
世界で通用するビジネススキル
11月試験 申込受付中
日商簿記(1級〜4級)
次回試験日:〔1級〜4級〕11月15日(日) 〔2級〜4級〕2016年2月28日(日)
※リクルートエージェントのホームページ「企業が求める資格ランキングトップ10」から引用

地力をつけて、ビジネスに活力を。

7,000万人*の受験実績を誇る産業界の信頼ブランド
商工会議所検定
商工会議所が実施する検定試験は、全国統一の基準の下で、年間約74万人(2014年度実績)の方々が挑む大規模なもの。年齢や業種を問わず幅広い受験者層の方々が、実社会で活躍するため、また、就職力を高めるためにチャレンジしています。※昭和19年からの累計受験者数

お問い合わせは 日商簿記 検索 http://www.kentei.ne.jp
情報ダイヤル 03-5777-8600 受付時間 8:00〜22:00(年中無休)